

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ
代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
(コード 8732 大証ヘラクレス)
問合せ先 取締役CFO 中西 典彦
(TEL. 03-4540-3804)

平成21年4月3日発生 of 当社子会社におけるシステム障害の状況と その対応についてのご報告

平成21年4月3日(金)に発生いたしました当社子会社(株式会社マネーパートナーズ。以下「子会社」といいます。)におけるシステム障害の状況およびその対応につきましてご報告申し上げます。

平成21年4月3日(金)21時35分頃より24時30分にかけて、子会社において、FX取引システム基幹データベース(Oracle10g RAC-10.2.0.3)およびそれを稼働させているハードウェア上のデータベース遅延によるシステム障害により、お客様へご提供しております取引環境が不安定な状態となりました。このため、一部のお客様につきましてログイン出来ないまたは注文執行できないという事象が発生いたしました。

当日は米国雇用統計の発表日であり、システムへのアクセスが集中することから、メーカー、システムベンダーとも連携を確認し、十分な体制で臨んでおりましたが、予期せぬ障害が発生し、また、その完全復旧に多大な時間を費やす結果となり、お客様に多大なるご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

1. 障害発生の原因について

直接の原因につきましては現在調査中ではありますが、現時点で判明しております障害の現象および発生経緯は以下のとおりであります。

オラクル(RAC)の実行コスト自動最適化による処理速度の急激な劣化が発生。

(通常時0.08秒で処理出来るものが最大594秒)

インフラ設計上、キャパシティ4,000で設計していたセッションが2,000で高負荷状態へ。

(ここでいうセッションとはお客様接続数ではなく社内サーバ間で処理する最大セッション数であり、通常時は720セッション前後)

分離独立した設計により機能を保てるはずの一部アプリケーションに当該障害の影響による遅延が発生し、再起動を余儀なくされる事態が発生。

上記の現象に鑑み、基幹データベースであるミドルウェアの提供元であります日本オラクル社および当該ハードウェアの提供・保守運用先であります日本ヒューレットパカード社、当社子会社であり、アプリケーション提供元でありますマネーパートナーズソリューションズ社、その開発委託先でありますシンプレクステクノロジー社の各社に対し、現在、原因の解明および詳細報告を求めている状況であります。

2.対応策について

喫緊の対応策と致しまして、以下の対応を実施しております。

当該問題に起因する可能性のあるデータベースの実行コストにつき、実行計画の日々の監視を徹底し、最適化を実施。

ハード・インフラを含む各稼働プロセスの監視の強化を実施。

上記対応策の実施により、現稼働環境におきましては問題なくシステムが稼働することを確認しております。

また、大規模負荷試験による当該事象の再現テストを実施し、発生原因の詳細および抜本的改善策の策定を予定しており、結果ならびに詳細につきましては後日改めてご報告させていただきます。

3.業績への影響について

本件による、当社グループの業績への直接の影響は軽微であると考えております。

当社グループでは、システム障害防止のため、ソフトウェア、ハードウェアおよびその運用態勢、コンティンジェンシープランの策定を含め、最大限の取組みを続けてまいり、平成19年10月末以降安定稼働を続けてまいりましたが、今回このような事態となりましたことを深くお詫び申し上げます。今回の事態を厳粛に受け止め、今後このようなことのないよう、グループ全社を挙げて、より一層のシステム強化への取組みを行ってまいり、一日も早くお客様からの信頼回復に努めてまいる所存でございます。

以 上